➢ 宿題①「つながりはどこにある（つくる）ものだと思いますか？」

（１）

繋がりは、あらゆる分野、場面で存在している。家庭が大元であり家族が繋がり、社会へと繋がる。地域がありそこは職場、団体、学校など塊がありその中でまた交わり繋がっていよう。

（２）

「つながり」について「居場所」と捉えます。

あらゆる立場の人にとって、居場所があることは幸せです。組織やコミュニティにおいて帰属意識があれば、安心感があり自己肯定感が育まれます。一方で、居場所が無ければ不安感が高まり、そのため自分本位な振る舞いをしてしまうかもしれません。すでに組織等の中で安心して生活している人が、居場所が無いと感じている人のために何かできないか、どのように関わるかを考え実践することで居場所ができ、つながりができるのではと考えます。

（３）

人は生まれて家庭（家族）とつながり、教育現場で教師や友人等とつながり、社会人となり職場でのつながりができる。いつの時でも、その人それぞれの「つながり」があると思う。

私の場合、「地域とのつながり」ができたのは、子どもの学校のＰＴＡ役員を引き受けたことがきっかけとなった。そのときのつながりで、子どもが卒業後もいろいろな活動に参加するようになり、勉強会等にも参加することができた。また、そこで地域のいろいろな世代、立場の方々と知り合うことができた。

「つながり」をつくるきっかけは、その人それぞれの意思、希望であると思う。地域活動への「つながり」をつくるきっかけは、繰り返し参加を呼び掛けること、繰り返し活動内容を知らせ、参加を呼び掛けること、今の４０歳代、５０歳代のおかれた状況を考えて行う必要があると思う。すべての人が興味がないわけではないと思う。

（４）

地域のつながりは様々なきっかけで生じます。例えば隣近所の付き合いから生まれるつながりに始まり、町内会や自治会などの地縁組織に参加することにより生まれるつながりや、ボランティア団体やＮＰＯ（特定非営利活動法人）など地域の課題を解決するために設立された組織に参加することにより生まれるつながりなどがありますが、近隣住民同士の交流は不活発で、地域における町内

会・自治会等の中間組織があまり機能していないといえます。

コックをひねれば水やガスがでる。街の安全は警察や消防が守ってくれる。そんなサービスを前提に、わずらわしいことは「公共（役所）」にまかせて、「私は一人でも生きていける」と思ってきました。人と人とのつながりがどんどん希薄になるなか、周りの人とうまく関係をつくることができずに孤立化する人たちやお互いが無関心ななかで発生する都市型犯罪の問題など、「ひとりで生きる」ことの問題点が明らかになってきましたし、私自身も市外で働いているため、最近気付きました。さらに、大震災は、公共サービスが途絶えたときの「ひとりで生きる」ことの脆さをあらわにしました。結局あのとき役に立ったのは、外部から駆けつけた市民ボランティアの支えであり、なによりも近所どうしの見守りや支えあう力、すなわち地域コミュニティの力だと思います。地域コミュニティがしっかりしていた地域のほうが、「ひとりで生きる」人の多かった都市部よりも災害被害が少なくその後の立ち上がりも早かったことはよく知られています。

震災のような非常時だけの問題ではありません。いま私たちの身の回りでおこっている、子どもを狙う犯罪や事故、高齢者の孤独死などのなかにはちょっとした地域の見守りや支えあいがあれば、（もちろん完璧ではないまでも）防げるものが多くあります。そんな大げさな想定をしなくとも、孤独になりがちな高齢者や小さな子どもを抱えてがんばるお母さんたち、リタイアして居場所を失った中高年、周りに認めてもらえなくて自分を見失いかけている子どもや若者たちにとって「人と人とのつながり」の中に居る（コミュニティの中で、自分が自分として認められる、認め合う。すなわち、居場所がある）ということはとても大切なことのはずです。

近年、私も含めて少しずつですが、「地域コミュニティがしっかりしていることが安心の基盤」だということに気づき始めているように思います。とりわけ、子育て真最中の若い世代を中心に、父親の積極的な子育 、子どもの見守り活動に参加する親たちが増えつつありますし、地域のことは地域で決める最近、自分の地域のいいところを大切にし、気になるところを改善していくことで、それぞれの地域ごとに自分の地域を自分たちで住み心地よくしていこうとする地域が増えてきていて、そのなかで地域コミュニティの役割が見直されていると思います。

私たちはこれまで、税と引き換えに、一方的に行政からサービスを受けてきました。私は地域に直接関わる福祉や教育、そして地域内の公園づくりなどの環境整備など、すべて行政任せで生活してきましたが、私が思うつながりがあるもの、作るには…

・一人ひとりがつながる意識を持つこと（あいさつをするなど身近なつながりづくりから、ＰＴＡや老人会など様々な団体とのつながりをつくること）

・つなぎ役になって地域においてネットワークを形成すること
・普段からみんなが話し合い、交流できる場があること（そこから小さなコミュニティが生まれること）
・地域の人がつながるきっかけとなるイベントがあること
・地域活動に気軽に参加できるような仕組み、若者を巻き込んでいく仕組みを考えること（例えば、テーマを分けて規模を小さくすること）
・イベントだけでなく、地域の課題に取り組んでいく中でのつながりづくりや役割分担をしていくこと
・高齢者等が孤立しないように見守りや見回りを行う中で、また災害を想定した避難訓練や防犯パトロールを行う中で地域のつながりをつくること
・ネットを効果的に活用するなど積極的な情報の公開・共有を行い、地域の人を巻き込んでいくこと。また情報発信にあわせて地域の良い点を伝えていくこと
・積極的に地域の担い手を地域で発掘、育成し、世代交代が上手くできるような仕組みを考えること
・テーマごと役割分担をすることで、特定の人が重荷にならないよう配慮すること
・地域活性化のための地域での施策の方針をつくること、取組の優先順位をつけること。そのために地域の意見をしっかりと聴く仕組みをつくること
・子どもが安全に暮らせ、また、幼少の頃から地域に愛着を持たせるような取組を行うこと
・町会等について　町会等のつながりを強めること　町会等のあり方も時代に合わせて変えていくこと、入りやすい仕組みをつくること、町会等のあり方を見直すこと、町会等と他の団体とが連携していくこと

以上が私の思う、つながりの作り方、あるところです。

富士見市も人口が増えておりますが、各世代、各家族のルールだけでは考え方、捉え方が異なるため、狭い地域から広い地域を知る情報共有ツールが富士見市は多くあるので活用し、多く顔を合わせる事が苦手、時間が作れない世代、新しく入ってきた世帯にも広がる情報共有ツールも大事。知らないだけで行動したい人もいるはずです。

（５）

つながりは自分でつくるものだと思う。自分の興味のある身近なところの集団、例えば歴史に興味があるから市民学芸員になった。そこで他のボランティア活動をしている人に会い・・・という具合に。市民学芸員制度は年齢的にも受け継がれて良い制度だと思います。

４０代・５０代がどのようなことに興味をもっているのかアンケートをとるのも一つの方策かと思います。いろいろな情報が満ちあふれている現在、ネットで調べられても人と人のつながりは得にくいでしょう。

異年齢の交流という点では南畑地域を深掘りすると何か得られるかも知れません。

（６）

共通の課題／価値観／興味・関心を持つ人々の間に、または概念的な「地域」との間にあるものだと思います。しかし、本来は暮らしの中でいろいろな「つながり」が遍在しているはずでありながら、「個」が置かれている環境や自他への関心度合いの強度などによって「つながり」は偏在している状況があり、「つながり」を持ちたくても持てない人や「つながり」は必要ないと感じている人がいるのではないかとも思います。

どのように「つながり」をつくるのかについては、人が他者や地域と「つながり」を持つための「端子」は人によってその形状や数、長さ、強さが異なることに留意して、「つながり」をもたらす仕掛けづくりを考える必要があると思います。

（７）

集まって活動することをイメージして話し合いが進んでいますが、いまは別のつながり方もあるようです。

コロナ以前ですが、ＰＴＡ広報の発行を最小限の会議回数で発行した事例を聞きました。号ごとの担当分担、役割分担をしてあとは担当者間のＳＮＳやメールでのやり取りで仕上げたようです。広報の発行はとても楽だったとのことでした。

ただ、対面の有無は別にして、こういった効率的なやり方だけでなく、非効率的な中にも見出していける物が多くあるように思いました。広報の発行作業だとしても、学年を越えて多くの関わりを持つことで、テーマへの関心を深めることができたり、子育てについての大きな学びや気づきにつながったかもしれません。

地域社会のような広い年代を抱えたところでは、さらに大きな成果が得られそうです。残念ながら、その意味を感じること、実感を持つことができにくくなってきているように思います。

（８）

富士見市の出生率、高齢化率は県内の他の市に比べて今のところそれほど深

刻には考えられないが、時代や社会環境などに伴い世代間の人間関係が希薄になってきたことは、事実だと思います。地域で幸せな社会生活を送るにはコミュニティの充実が大切なことになると思います。歴史や文化を次世代に伝え、継承し、時代に調和した生活や社会を作り上げていくことはとても重要です。

私が住む地域では、自治会が中心となって神仏の祭典等が縮小されながらも丁寧に行われています。また地域のイベントも多く開かれ、世代を超えて沢山の人が楽しんで参加しています。

（９）

世代のつながり　地域のつながり　学校と家庭のつながり　時代のつながり　過去―現在―未来のつながり　住民と行政のつながり　異校種間のつながり　家族間のつながり　etc.　思うがままにつながりを挙げてみました。やはり、今一番地域の中で求められているのは、世代間のつながりではないかと考えています。

➢ 宿題②「生涯学習とは？」

参考社会教育法第３条
「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」

（１）
個々人を磨き高め豊かな日常を手にし生活できれば、充実した地域社会が形成されるのでは。地域に根差した文化に関わり、個人的に備えた教養と趣味を持った人生を。

（２）
「学習」とは自発的な行為である。
生涯学習とは人生の様々な機会に、様々な場所で様々な方法で学び続けることだと考えます。その原動力は社会や自分に「課題」があり、そのことを解決したいという「願い」だと思います。しかし、一般的に社会や自分のことに関心がない人が増えてきている感があります。このことが深刻化すると地域のコミュニティ（互いに支えあう関係）は崩壊してしまいます。そこで、行政として「課題があるよ」という情報発信や、そのことについて学ぶ機会を意図的に計画する必要もあるのではないか、そういう状況にあるのではないかと考えます。

（３）
私たちが、生涯に渡って行う学習活動。家庭教育、学校教育、文化活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など、様々な場や機会に行う学習。

（４）
生涯学習は生涯にわたり行う学習活動です。私たちはさまざまな場面で日々学習し続けています。家庭を中心とした学習を始め、やがて学校での学習をするようになります。社会に出てからも、人と人との関わり合いの中で多くのことを学習します。そのため、学習教育だけでなく、社会教育、文化活動、スポーツ活動、ボランティア活動、人と関わり、自己研磨する点は生涯学習と同じです。
人生１００年時代と言われ、６０代でこれまでの仕事を定年退職し、それでも後２０年、４０年を生きられるとなると、残りの自分の人生をどう生きるのかが重要になります。一般的に働き始めてからは、一日の大部分を職場で過ごし、人

生のほとんどの時間を仕事に使います。会社に行かないからといって、残りの人生、家にずっと１人閉じこもって何もしないで過ごすという風にはいられません。自分にとっての生涯学習は社会の変化に対応するためです。社会・経済は常に流動的に変化し続けます。そのため、私たちは絶えず新しい知識や技術の学習を続けていかなくてはなりません。学び続けることは、個人の知識を深めたり、技能を身につけたりするだけでなく、社会全体にとっての人材育成にもつながります。それは結果的に、社会や経済のさらなる発展にも寄与します。また、学習機会を増やしていくと、それだけ多様な学びの場ができ、それと共に評価する場も多様化します。そうすることで、「学歴」という物差しだけで評価するだけではなく、個々の特性を活かした、さまざまな学習の成果を適切に評価される世の中が期待できます。

生涯学習は、学校教育と異なり人々の学習ニーズに即した幅広い学習内容を持っています。社会教育施設での公民館や図書館、博物館、青少年教育施設での学習です。ここでは家庭や学校の外で、児童から青年、成人、高齢者に至る全ての年齢の人が学習や研修、スポーツ、趣味などを楽しむ機会が提供されています。また、これらの施設は、地域コミュニティの観点からも重要な役割を担っています。人生１００年時代といわれる今、人生の充実を誰もが重視するようになった。満足できる人生を送りたいなら学びの姿勢を忘れず、人間として常に成長し続けることが大切だと思っています。成長は達成感や幸福感を呼び起こす。子どもだけでなく、大人にも当てはまります。生涯を通じて学び続け、人間として成長してこそ、豊かで充実した人生を送れ、生涯学習を通じて広がる縁もあります。

一人でもできるが、コミュニティに入り一緒に学ぶこともできる。コミュニティでは、成長意欲の高い人々と出会えるかもしれない。学生時代の友人関係が、大人になってから特別な意味を持つのは、学びを共有したという面も大きい。授業や部活動にしろ、学ぶとき一緒に過ごした相手は、かけがえのない存在になります。生涯学習でも同じで、ともに学びを深める中で、大人になってからでも、貴重な人間関係を築ける可能性がある。生涯学習を通じて得られた人脈が、ビジネスにつながることもあるだろう。人生を充実させる目的で始めた生涯学習が、思わぬところでプラスに働く。

現代は変化の激しい時代、技術革新によって私たちの生活は豊かになり、過去の暮らしを思い浮かべると、スマホやインターネットも普及しておらず、人工知能やＶＲはＳＦ小説におけるフィクションでした。また、現代は多様性の時代ともいわれている。国境を越えたビジネスは当たり前になりつつありＳＮＳを通じてマイノリティの発言が注目される機会も増えています。変化の激しい多様性の時代を生き抜くには、視野や考え方を広げなければならない。生涯学習は、さまざまなジャンルを対象としているため、視野や考え方を広げるのに絶好の

機会となります。生涯学習を通じて、さまざまな人々の思想に触れる中で、価値観も変わるはずです。柔軟な価値観は、仕事や私生活においても、プラスの影響をもたらしてくれる。

自分にとって生涯学習は自己研磨し多様性の時代に価値観、考え方を広げ自身を成長させ（内面強化）、次の世代を成長させることが現時点で重要と捉えています。

（５）

私にとって生涯学習とは、私という学習者の視点から捉えたものであり、学校教育や家庭教育における学習、そして社会教育も含まれるものと考える。もちろん個人的な趣味や私が学びたいと思う様々な学習もその中に含まれるものと考えている。人間は日々考えながら疑問に思ったことを友人達と議論し合い、解決策などを導き出しながら生きていくものだと思う。人生１００年時代、与えられた生の中で生涯学習１００年、新しいことにも興味を持ちながら前向きに生きて行きたい。

（６）

自己実現のプロセスの中での「個人」に焦点をあてて解釈／実行／評価されることが多く、その効果は、基本的には「個人」にもたらされるものだと思います。

また、「よくよくありたい／成長を続けたい」という個人の能動的・積極的な思いが動機づけになっていることが多く、他者・外部が「個人」に対して強制するものではないと思います。

（７）

一生涯を通して学んでいくこと、と考えられているのだと思いますが、どの段階にあっても、貧困の問題などと絡めると、今はその難しさを感じます。まず学校教育が確実に受けられること、その後の社会でも希望する学びの機会を得られることが、どの個人に対しても保証されるものであってほしいと思います。

（８）

「生涯学習とは、誰もがいつでもどこでも年齢にかかわらずできる学習活動のことであり、家庭、学校、職場、地域等で行われるすべての学習に当てはまる」という。内閣府のデーターによると、高齢者は「健康」「趣味」に関心が深く、直面している問題の為これらが主流になっているようです。

私は以前、様々なサークル活動をしてきましたが、今は年齢とともに健康や食事に関することに興味が深まり、食改でボランティア活動を行っています。

このように多くの場で体験する生涯学習は、豊かで充実した社会生活につながっていると確信しています。

（９）

自己実現と社会貢献のため、生涯にわたり自己の資質・能力の向上を目的として自主的に学ぶこと。また、行政及び市民によりその環境を整えること。

ライフステージ、キャリア段階に応じて必要とする知識・技能を適時・適切な方法で身に付けること。

（１０）

今の私にとって生涯学習とは、新たな自分づくりのための、人との交流であり社会や地域へのかかわりではないかと思っています。「個々人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするもの」と言われています。しかし、意図的な「学び」でなくても生涯学習になる場合もあるのかなと思います。

具体的な例としては、資料館の市民学芸員間で行われているミニ講座や館外研修で学ぶことなどがあげられます。

➢ 宿題③「社会教育とは？」

参考社会教育法第２条
「学校教育法（昭和２２年法律第２６号）又は就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成１８年法律第７７号）に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう。」

（１）
市民の社会性の向上に寄与？貢献？お示しする。

（２）
「教育」とは学習の主体者以外の者が、意図的に計画した伝承的な活動である。
社会教育とは、行政等により学習者が意欲的に学習できるように施設・設備の設置及び運営、また学習者のニーズに応えた計画・運営をするというイメージでしょうか。つまり、住人のニーズ（課題を解決したいという願い）を的確に判断し必要な措置・対応をすることだと思います。しかし、住人にニーズが「希薄」であることが課題であり、そのために行政として意図的な機会の設定等の対応が今後求められると考えます。

（３）
学校教育、家庭教育以外の公民館等で行なわれている活動というイメージ。
生涯学習＝学校教育＋社会教育＋家庭教育

（４）
社会教育は、学校教育と異なり、人々の学習ニーズに即した幅広い学習内容をもっており、様々な場や機会で行われていますが、学習の拠点となる代表的な社会教育施設として公民館、図書館、博物館、青少年教育施設などがあります。「社会教育」は、「学校教育」に含まれないすべての学習活動ということができます。例えば、仕事をする上でその知識を深める学習や、スポーツや趣味を楽しむ活動、自分の興味がある事項について調べることなどあらゆる学習活動が該当します。これらで学習した成果を地域社会に還元していくことが社会教育の役割でもあります。社会教育が「組織的な教育活動」ということです。教育活動は、学校、家庭、地域や職場で行われていますが、そのなかの地域や職場などでの教育活動が社会教育であると一般的に理解されています。社会教育施設で行われている

講座や生涯学習課の出前講座だけでなく、今のように価値観が多様になり、社会的な課題が複雑になっているなかでは、社会教育施設での講座以外の実際生活の教育活動にもっと意識を向けていく必要があると思います。日々の生活のなかで実際に出会うさまざまな課題などに対して教育を通じて解決することです。例えば、健康を気にしなければならないという課題に直面すればどういう運動や食事が良いかについて自分で図書館に行って調べて考えることなどは一人で学べますが、これも自己教育という形での社会教育活動として理解することもできます。また、市民講座で教えてもらう方法もあると思います。社会教育施設以外での地域や職場などで、みなさん一人ひとりが課題を解決するなど生活を豊かにするなかに見出すことのできる学びの支援という側面が強くなってきていると言えます。

社会教育には「体育及びレクリエーション活動」も含まれていますが、今日では、スポーツ活動、レクリエーション活動にとどまらず様々な体験活動や社会貢献活動も社会教育の範囲として広くとらえられています。これらの中には趣味として行われる活動もありますが、組織的に行われる教育活動は、いずれも社会教育といえます。社会教育と家庭教育の関係も、子どものしつけ等の家庭教育に関する講座やセミナーが行われていますがこれは学習内容に「家庭教育を扱っている」ということです。つまり、家庭教育そのものは社会教育に含まれませんが、家庭教育に対する支援は、社会教育に含まれます。

社会教育には、地域住民一人一人のもつ資質や能力を高め、その力を地域活動に生かす「人づくり」、そういう人々の活動が地域の課題解決や地域の活性化につながる「地域づくり」、そして、それらの活動を通して地域住民の間に絆が生まれる「絆づくり」という大切な意義があります。

「人づくり」について、複雑化した現代社会においては、個人や地域は様々な課題を抱えています。それらの課題の解決に向けて、地域住民が当事者意識をもち積極的に行動することが、これまで以上に求められていると思います。そのため、社会教育においては、趣味・教養に関する講座等だけでなく、現代的・社会的課題に応じた学習を充実させる必要があります。その結果、住民一人一人の資質や能力が高められるなど、社会教育による「人づくり」が出来るはずです。

「地域づくり」について、 過疎化・核家族化など社会状況の変化により、地域コミュニティの希薄化が一層深刻になっています。個人や地域の課題解決に向けた学習活動や ボランティア活動等を支援することは、地域住民の力を発揮する機会を提供することとなり、その結果として、地域が活性化されます。これが社会教育のもたらす「地域づくり」です。

「絆づくり」について、地域住民が個人の力を高めながら、つながりあい、積極的に行動することにより、地域住民の間に「絆」が生まれ、住民同士のつなが

りがより強まります。それとともに地域や社会に貢献しようとする人々の思いや、 社会の動きも高まっており社会教育のもたらす「絆づくり」の重要性は増していると思っています。

自分にとっての社会教育は、生涯学習を内側のスキルアップで社会教育は外側、各自のスキルを還元しながら、新しい活動を広げ、自己の技術能力を高め、自身も成長し地域、次の世代にもスキルアップを促す事だと思っております。

（５）

私にとっての社会教育とは人づくり、繋がりづくり、地域づくりだと思う。

学校教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動のことと考える。かつて富士見市内の各公民館や資料館・図書館が青少年や生産年齢、高齢者対象に様々な事業を取り組んできた。しかし現在まで受け継がれているのは子育て事業・平和事業・高齢者事業などで、残念なことに生産年齢を取り込んだ事業はあまりない。時代の変化も原因の一つであろうが、６０歳定年が叫ばれていたころは、各公民館でも５０歳代を対象とした地域デビューへの足がかりの講座などを開催していたと思う。そこに参加していた人たちが今７０代・８０代の人たちである。継続的に何かを仕込んでいれば、ギャップは生まれなかったのかも知れない。今や定年が７５歳、もしくは元気な内はずっと現役で…といわれている時代になってしまった。地域デビューがますます遅れてきている。

（６）

語感としては、「生涯学習」の機会を提供するフィールド側での仕組みやデザインを言い表しているもので、その効果は、学びの機会を提供する「社会」に表れていくものだと思います。

（７）

かつて、学校教育・家庭教育・社会教育が大切な３つの柱だと知りました。その中でも社会教育は子どもから大人まで誰もがお互いに関わることができ、年代を超えて共有できるものだと思います。

（８）

「社会教育の原点は青少年および成人に対しての教育活動と定義されている」

私の住んでいる地域では、かつて公民館に多くの青少年が毎夜仕事後に集まり、政治、文化、社会生活等について学習会を行っていました。職員が講師役になり学ぶ機会を作ってくれたそうです。まだ社会教育の意味さえ知らない若者

たちばかりだったようですが、やがてその中から議員はじめ、町会長など地域のリーダーになり、力を尽したと聞いています。私は以前、市民大学の公開講座に参加することがありましたが、今はコロナ禍で難しい状況です。社会教育の学習は、内容が幅広くとても魅力的だと実感しています。

（９）

目的・目標・趣味・嗜好などが共通する者が、必要な知識・技能を身に付けるために組織的・計画的に効率よく指導を受けること。または、会員同士で学び合うこと。

（１０）

社会教育法第２条にある「主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動」を踏まえるのであれば、組織的なつながりの中で行う「人づくり」「地域づくり」の教育活動ではないかと考えました。私は、公的・私的を問わず機関や集団の中で実現していくものではないでしょうか。

健康増進センターで実施している健康づくり活動や社会福祉協議会ボランティアセンターでの講習も社会教育になると思いました。